

# トップメッセージ



## はじめに

三井住友フィナンシャルグループ社長の北山でございます。平素より私ども三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)をお引き立ていただき、心から御礼申し上げます。

私どもはこれまで、スピードや先進性、高い効率性といった強みを活かし、さまざまな戦略ビジネスを育成し、収益性の高いビジネスモデルをグループベースで構築してまいりました。同時に、バランスシートのクリーンアップや公的資金の完済といった財務上の課題についても着実に解決、ビジネスポートフォリオを支える財務基盤の強化も進めてまいりました。今後は、「質を伴った量的拡大」をキーワードに、複合金融グループとしての企業価値の持続的成長を実現していきたいと考えております。

平成18年度につきましては、「持続的成長に向けた地歩固めの年」と位置付け、「お客さまの価値創造に資する質の高い商品・サービスの提供推進」、および「強固な企業基盤の構築」の二点に重点的に取り組んでおります。それでは、以下、当社グループの平成18年度上期の業績、ならびに、平成18年度下期の取り組み方針等についてご説明してまいります。

## 平成18年度上期の総括

平成18年度上期の経済環境を顧みますと、わが国では、内外需がともに堅調に推移し、景気は回復を続けました。一方、海外では、米国経済が減速しつつも拡大を続けたほ

か、欧州で緩やかな景気回復が持続し、アジアでも中国等で高い成長が続きました。金融資本市場におきましては、日本銀行は昨年7月にゼロ金利政策を解除し、無担保コールレート(オーバーナイト物)の誘導目標を0.25%前後としました。一方、長期市場金利は、新発10年物国債の流通利回りが一時2%に達しましたが、追加利上げ観測の後退等を背景に、期末には1.6%台まで低下しました。

このような環境の下、価値創造に資する質の高い商品・サービスを提供するべく、個人のお客さま向けのコンサルティングビジネス、ならびに、法人のお客さま向けのソリューションビジネスを一段と推進するとともに、強固な企業基盤を構築するべく、コンプライアンス、お客さまを起点としたビジネス展開、品質向上への取り組みといった内部管理体制の一段の高度化、および財務基盤の一段の強化を進めました。なお、当社グループの上期の業績につきましては、三井住友銀行(SMBC)において、不良債権処理にかかる与信関係費用が当初予想を下回った一方で、金利上昇を踏まえて債券ポートフォリオを中心としたポジション圧縮を行ったことに伴い、国債等債券損益が616億円の損失となったこと等から、連結経常利益は3,571億円(前年同期比1,066億円減少)、連結中間純利益は2,436億円(同1,487億円減少)となっております。

## 平成18年度下期の経営方針

当社グループは、平成18年度下期におきましても、引き続き、次の取り組みを進めてまいります。

## お客さまの価値創造に資する質の高い商品・サービスの提供

個人のお客さまにつきましては、SMBCにおけるコンサルティングビジネスの一段の高度化に取り組んでまいります。具体的には、今後、SMBCフレンド証券との協働によるファンドラップサービス等の新たな資産運用商品・サービスの提供を開始するとともに、「三大疾病保障付住宅ローン」等、お客さまのニーズに即したローン商品の提供を更に進めてまいります。また、平日夜間や休日にも営業する「SMBCコンサルティングプラザ」等の専門拠点を更に増設するとともに、高い専門性を持つコンサルタントを増員し、お客さまの利便性およびニーズへの対応力を一層高めてまいります。

また、さまざまな業界におけるリーディング・カンパニーとの協働を通じたサービスにつきましても、今後、

一段と拡充してまいります。具体的には、SMBCとプロミス(株)との提携による消費者金融・ローン、三井住友カードと(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモとの提携による「三井住友カードID」等の展開を、更に進めてまいります。

法人のお客さまにつきましては、ソリューション提供力の一段の高度化に取り組んでまいります。大企業・中堅企業の皆さまに向けましては、昨年4月にSMBCに新設した「コーポレート・アドバイザリー本部」や、大和証券エスエムピーシー(株)との協働を通じて、M&Aによる事業拡大・再編等のお客さまの経営課題の解決に資する最適なソリューションを提供してまいります。中小企業の皆さまに向けましては、ビジネスセレクトローン等の無担保貸出や、インターネットバンキングサービスの提供を通じて、さまざまな資金調達、資金決済ニーズに応えるとともに、事業承継にかかるアドバイス等を通じて、お客さまの経営課題解決に積極的に取り組んでまいります。

加えて、三井住友銀リースによる各種リース業務、日本総合研究所によるコアシステム受託やITコンサルティング業務等、グループ体となったソリューション提供も更に進めてまいります。なお、昨年10月、当社は、住友商事グループとの間で、リース事業およびオートリース事業の戦略的共同事業化について基本合意いたしました。平成19年10月をめどとする、三井住友銀リースと住商リース(株)の合併、ならびに、三井住友銀オートリース(株)と住商オートリース(株)の合併により、銀行系リースと商社系リースのノウハウを結集・融合し、お客さまに付加価値の高い商品・サービスを提供してまいります。

### 強固な企業基盤の構築

当社は、持続的成長を支える強固な企業基盤の構築に取り組んでまいります。

SMBCは、昨年4月、金融庁より、法人営業部における金利スワップ販売態勢等に関して行政処分を受けました。当社および同行はこの事態を重く受け止め、再発防止と信頼回復に向けて、引き続き内部管理体制の一段の高度化を進めてまいります。

まず、コンプライアンスにつきましては、昨年4月にSMBCに新設した「コンプライアンス部門」を通じて、法令等の遵守を一層強化してまいります。CS・品質向上につきましては、併せて新設した「品質管理部」を通じて、より積極的にお客さまのご意見や視点を経営・業務に活かし

てまいります。また、リスク管理につきましては、事業範囲の拡大に対応した高度化を更に進めるとともに、今年度末に予定されておりますパーゼル(新BIS規制)導入を踏まえた体制強化を、グループ全体で推進してまいります。そして、これらの取り組みの有効性を一層厳格に検証するべく、内部監査体制を強化いたします。加えて、お客さまの視点や中長期的視点に立ったバランスの取れた業績評価を行いますとともに、従業員が一段と能力を発揮できる体制を作るべく、人材マネジメントの高度化も進めてまいります。

一方、財務基盤の一段の強化に向けましては、当社は、昨年10月に、公的資金の返済を完了いたしました。平成10年3月以来、公的資金に支えていただきましたことに、心より御礼申し上げます。当社は、今後も引き続き、資本の質・量両面での拡充を進めるとともに、中長期的な企業価値向上の観点から、戦略分野への経営資源の投入を一段と積極化してまいります。また、当社は、株主の皆さまへの利益還元を強化する観点から、当期の普通株式年間配当予想を、従来予想比3,000円、前期比4,000円増配の1株当たり7,000円に上方修正いたしました。今後も、適切な株主還元策を講じることを積極的に検討してまいります。

### 終わりに

金融ビジネスにおける競争は激しさを増しておりますが、今後も当社グループは、以上ご説明した取り組みにおいて着実な成果をお示しすることにより、お客さま、株主・市場、そして社会の皆さまのご期待に応えてまいりたいと考えております。今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年1月

株式会社三井住友フィナンシャルグループ  
取締役社長  
北山 禎介